

図 土地利用図



資料) 国土地理院

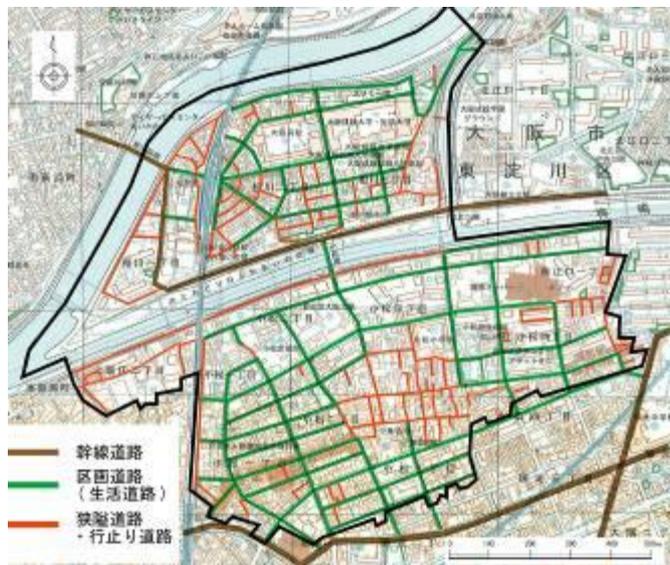
(2) 土地利用

本地域の土地利用は、住宅地が広がり、教育機関などの公共施設や商業・業務施設などが分布している。全体に一般低層住宅が多く、東部などには、中高層住宅が分布している。

商業業務施設は小規模なものが、北部、南部などに分布している。

学校などの公共施設は北部や中部などに、公園は小規模なものが点在している。

図 道路網図



作図) ランドシステム研究所、岡本

(3) 道路網

本地域の幹線道路は、南部などを通っている。本地域内には広幅員の幹線道路はみられない。

区画道路は、一般の生活道路で、乗用車の対向が可能な幅員の道路で、北部や南部などにみられる。

狭隘道路（^{きょうあい}狭い道路）や行止り道路は、乗用車の対向がしにくい、できない道路であり、また、袋小路となった行止りの道路で、北部、中部、東部などの一部にみられる。

図 外水氾濫予測図(淀川)

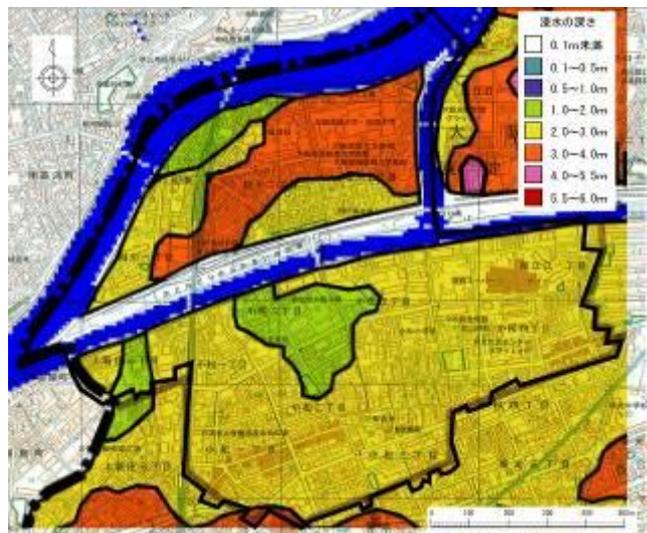
2-4. 災害予測

(1) 水害予測

① 淀川外水氾濫

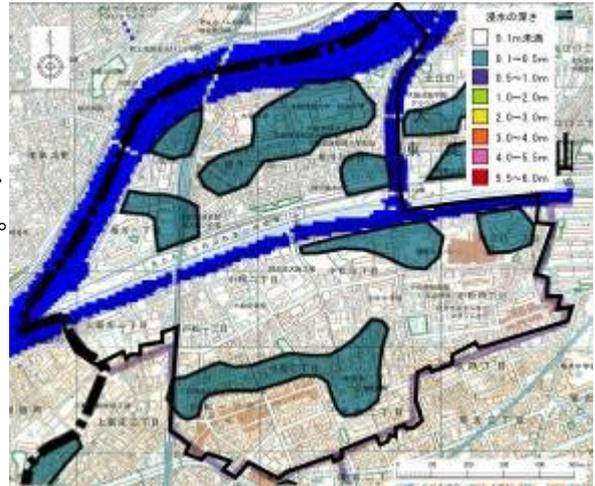
淀川の外水氾濫予測図によれば、本地域での浸水深の最大は3m~4mで、この区域は北部にみられ、中南部では2m~3m、一部では1m~2mの浸水深である。

収容避難所である小松小学校、大阪高校、大阪成蹊大学・短大は、1階まで浸水する予測である。



作図) ランドシステム研究所、岡本

図 内水氾濫予想区図



作図) ランドシステム研究所、岡本

②神崎川・安威川 外水氾濫

神崎川・安威川の外水氾濫予測では、本地域は、北部の一部で1~2mの浸水が発生し、その周辺の北部で0.5m~1mとなっている。

③内水氾濫

内水氾濫予測図によれば、本地域は、北部中部などの一部で0.1m~0.5mの浸水深となる区域が分布している。

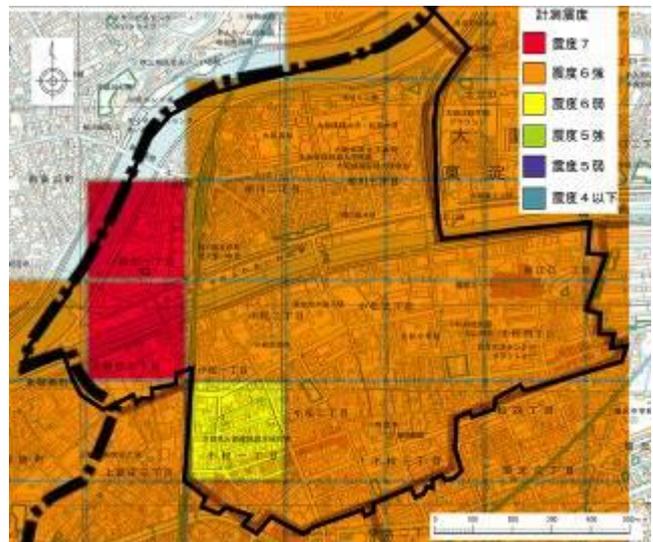
(2)地震予測

①震度予測

上町断層が活動した時の震度予測は、震度予測図によれば、本地域は西部の一部で震度7、ほぼ全域が震度6強、南西部の一部で震度6弱の激しい揺れが発生するものと予測されている。



図 震度予測図



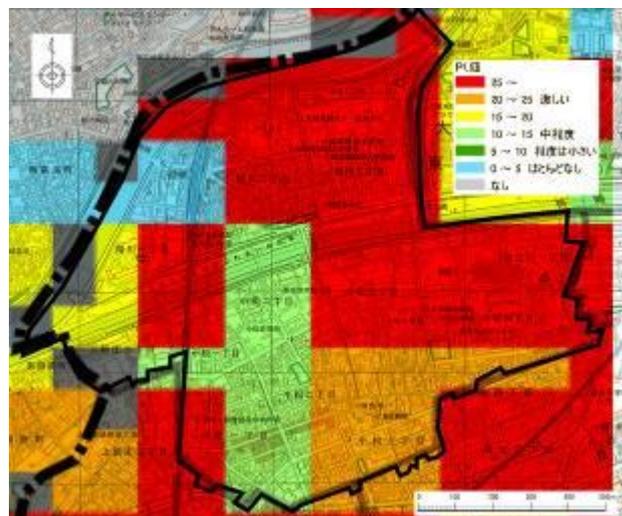
資料) 大阪府

②液状化

地盤の液状化はその土地の地下に堆積する砂層の分布や固結度、地下水位などの状況により大きく変化する。

本地域の液状化の危険性は、全般が高く、北部から東部にかけて液状化が発生しやすいと予測されている。

図 液状化予測図



資料) 大阪府

(3)南海トラフの巨大地震の予測

平成25年8月に、大阪府から発表された予測によれば、これらの地震が連動して発生すると、大阪市付近は震度6強